

宮私幼だより

No. 130
 社団法人 宮城県私立幼稚園連合会
 〒980-0803
 仙台市青葉区国分町三丁目6-12
 佐正第二ビル 6 F
 TEL 022-263-7040 FAX 263-7925
<http://www.miyashiyo.or.jp/>
 編集・発行人
 理事長 村山 十五



- 関係機関団体
- 7月29日～30日 障害幼児教育研修会（特別支援教育センター）
 - 8月6日 幼稚園教育課程宮城県研究協議会（県庁）
 - 8月19日 宮城県次世代育成支援対策地域協議会（県庁）
 - 9月3日 第18回仙台市私立幼稚園教育振興大会並びに第49回仙台市私立幼稚園PTA連合会研修大会
 - 10月27日 第32回宮城県私学振興大会（中高連・県民会館）
 - 10月30日 第54回東北造形教育研究大会宮城大会（福聚幼稚園）
 - 11月30日 みやぎっ子ルルブル推進会議 設立総会（県庁）
- 全日私幼連
- 8月17日 緊急団体長会
 - 8月25日 緊急団体長会・東北地区会
 - 9月9日 全日私幼連常任理事会（東京）
 - 9月18日 全日私幼連都道府県102条園代表者会議（東京）
 - 9月29日 団体長会・理事会合同会議（東京）
 - 10月6日 第2回都道府県政策担当者会議（東京）
 - 10月23日～24日 全日私幼連第24回東北地区私幼教研大会・福島大会（いわき市）
 - 10月26日～27日 全日私幼連第25回設置者・園長全国研修大会（新潟市）
 - 11月11日 東北地区会教育研究・経営研究・政策総務担当者連絡協議会（盛岡市）
 - 12月1日 全日私幼連理事会（東京）
 - 12月9日 第24回PTA全国大会（東京）

事務局だより



（只今全国展開中）

巻頭言

「年頭所感」

宮私幼理事長 村山 十五



今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

年明け早々、平成22年度の私立幼稚園関係予算の概要が文科省より発表されました。政権交代で、子ども手当が創設された影響もあり、幼稚園就園奨励補助金の一部が減額されました。このことについては、全日私幼連が総力をあげて、関係各省に働きかけ、宮城県においても、昨年11月に、仙台市市民会館での総決起集会を開催し、文科省への要望を行ったところではありますが、願いが成就できず、残念な結果になりました。この補助金は、市町村でも2/3負担することになっており、引き続き、各市町村の窓口と連携を深め、これ以上減額されないよう働きかけなければならないと考えております。各地区の会長、理事の先生方のご協力をお願い申し上げます。そのほかの運営費補助金や特別支援教育補助金、預かり保育補助金は現状維持ということになりました。

政権交代で事業仕分が行われました。幸いにして、今回は幼稚園に関して、特に問題視されることはなかったわけですが、今後、待機児童対策として、幼保の一元化が話題になることが予想されます。全日私幼連としての対応策を検討しておりますが、3月頃までには提言書のとりまとめをしたいと考えております。都市部と過疎地とでは考え方に大きな隔りがあり、困難な状況にありますが、認定子ども園が鍵となりそうです。いずれにしても、ここ2、3年で就学前の教育・保育のあり方が見直しされると思われます。

子どもの豊かな環境キャンペーン『こどもがまんなかPROJECT』がスタート致しました。すでに、全日私幼連からパンフレットが各園に届いているので、詳細は省きますが、幼児教育の重要性や3歳児の就園、私立幼稚園の存在を社会にアピールするための活動を行います。このキャンペーンの趣旨に賛同いただき、募金の協力をおねがいします。当面の活動は、『こどもがまんなかPROJECT』のロゴマークによる広報活動、ホームページや紙面媒体による幼稚園情報の発信、預り保育の充実等を計画しております。もちろん、各園での独創的な取組も紹介したいと考えています。社会が子どもに関心を持つ環境づくりにご協力ください。

3学期も新型インフルエンザが猛威を振るうことが予想されます。昨年末には保育園児が多く感染したとの報告を受けております。感染予防のために、臨時休園や学級閉鎖はもちろんのこと、手洗い、うがい、マスクの着用等徹底したいものです。連合会でも昨年秋より、感染対策の一環として、消毒液の斡旋をしておりますのでぜひご利用ください。このインフルエンザによる就労の取り扱いについても様々な議論があり、全日私幼連として、就業規則の改正案をホームページに掲載することになりましたので、ご活用願います。

最後に今年は役員改選期であります。自薦他薦を問いません。教育に経営に熱心で、この団体を牽引していただける先生の推薦をお願い申し上げます。

日	月	年	行事内容
12月15日	12月	2010年	○ 新任教育研修会(茂庭荘)
11月21日	11月	2010年	○ 免許状更新講習会(第1回・選択)(県民会館)
10月30日	10月	2010年	○ 未満児保育研修会(まつぼっくり保育園)・中級者研修会(県民会館)
12月22日	12月	2010年	○ 10年経験者研修会(青年文化センター)・仙台地区設置者園長会議(仙台市:旭ヶ丘市民センター)
12月15日	12月	2010年	○ 9日 免許状更新講習会(第2回・必修)(県民会館)
11月24日	11月	2010年	○ 研究委員会
11月16日	11月	2010年	○ 気仙沼・登米設置者園長会議(南三陸町:南三陸ホテル観洋)
11月9日	11月	2010年	○ 大崎地区設置者園長会議(大崎市:レストラノスギヤマ)
11月2日	11月	2010年	○ 名取・岩沼地区設置者園長会議(岩沼市:岩沼南こぼと幼稚園)
10月28日	10月	2010年	○ 塩釜・多賀城地区設置者園長会議(塩釜市:グラン
10月22日	10月	2010年	○ ドパレス塩釜)養成校との懇談会(ガーデンパレス)
10月16日	10月	2010年	○ 免許状更新講習会(第3回・選択)(戦災復興記念館)
10月10日	10月	2010年	○ 石巻地区設置者園長会議(石巻市:石巻グラウンドホテル)
9月27日	9月	2010年	○ 研究委員会・仙南地区設置者園長会議(柴田町:熊野幼稚園)
9月16日	9月	2010年	○ 経営委員会
9月11日	9月	2010年	○ 総務給付委員会・理事会
9月10日	9月	2010年	○ 公開園打ち合わせ会
10月22日	10月	2010年	○ 総務給付委員会
10月10日	10月	2010年	○ 第35回宮私幼PTA親善バレーボール大会(県総合体育館)
11月1日	11月	2010年	○ 総務給付委員会
11月1日	11月	2010年	○ 常任理事会
11月1日	11月	2010年	○ 広報委員会
11月1日	11月	2010年	○ 研究委員会・理事会
11月1日	11月	2010年	○ 幼稚園就園奨励費格差是正総決起集会(市民会館)
11月1日	11月	2010年	○ 研究委員会・総務給付委員会・広報委員会・理事会
11月1日	11月	2010年	○ 県知事表彰及び県教育委員会委員長表彰受賞祝賀会
11月1日	11月	2010年	○ 知事陳情
11月1日	11月	2010年	○ 宮城県教育委員会による特例民法法人調査
10月16日	10月	2010年	○ 聖ルカ幼稚園創立30周年記念式典
10月16日	10月	2010年	○ 宮城県教育委員会委員長表彰(学校教育功労)受賞
10月16日	10月	2010年	○ 斎藤潤子氏(聖ドミニコ北仙台幼稚園)
10月16日	10月	2010年	○ 菊田 眞雅氏(立華幼稚園理事長)逝去
10月16日	10月	2010年	○ 宮城県知事表彰(教育文化功労)受賞 畑中てる子氏(九条幼稚園)
10月16日	10月	2010年	○ 梶 ちよ氏(まとは幼稚園設置者)逝去
10月16日	10月	2010年	○ 遠藤 眞彌氏(みやの森幼稚園前理事長)逝去

「宮城県における幼児教育への 取り組みについて」



宮城県知事 村井 嘉浩

皆様には、日ごろから宮城県の幼児教育の振興に対しまして、格別の御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

幼児教育については、その後の児童の心身の発達にとって非常に重要であることが脳科学の研究者から提唱されております。その意味でも、県の幼稚園児の80%以上が通園しております私立幼稚園が本県の幼児教育に果たしている役割は非常に大きなものがあります。

県といたしましては、宮城の未来を担う人材の育成が極めて重要であると考えており、幼児教育を県政における最重要課題の一つとして位置付け、幼児教育の重要な役割を果たしている私立幼稚園の支援に今後も力を注いでまいりたいと考えております。

県の財政状況が極めて厳しい中で、平成21年度の私立幼稚園に対する運営費補助単価については2.6%引き上げるなど、幼稚園教育の充実

を図ってまいりました。来年度も県の財政状況が非常に厳しい状況ではありますが、宮城県の未来を担う子供たちの人格育成の基礎となる幼児教育の充実に引き続き務めていきたいと考えております。

昨今、核家族の増加や地域社会における人間関係の希薄化などを背景に、家庭や地域社会における教育力の低下が指摘されております。その中で幼稚園は、子供たちの人格形成と教育を担うとともに、幼稚園が培ってこられた幼児教育等の成果を家庭や地域社会に対して還元することが求められております。

幸い、我が県では私立幼稚園連合会が中心となって、幼児教育の一層の振興を図っていただいております。今後とも、宮城県の幼児教育の充実のために、御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

みやぎっ子ルルブル推進会議 設立総会 ～寝ル・食ベル・遊ブで伸びる子どもを育てよう～

平成21年11月30日県庁講堂において設立総会が行われ、記念講演には「子どもの生活習慣と脳」と題し東北大学加齢医学研究所教授の川島隆太氏の講演があり、引き続き設立総会が行われました。

会議設立趣旨は次のとおりです。

昨今の睡眠や食生活などの子どもの生活習慣の乱れは、生きるための基礎となる健康の維持や体力の増進に悪影響を及ぼすだけでなく、気力や意欲の減退・集中力の欠如など学習面でも大きな影響を及ぼすことが指摘されています。知・徳・体の調和の取れた元気な子どもを育て

るためには、「早寝・早起き・朝ごはん」といった規則正しい生活リズムを維持していくことが重要です。

社会・経済の急激な変化や人々の意識が多様化している現在、子どもの望ましい生活習慣を確立するためには、家庭だけでなく、学校、地域、企業など子どもを取り巻く社会の構成員がそれぞれ関わりを持ち、互いに協力して取り組んでいくことが必要です。

そのため、本趣旨に賛同する組織、団体及び法人等を会員とした「みやぎっ子ルルブル推進会議」を設立し、子どもの生活習慣確立に向けて普及・啓発やそれぞれの取組を推進するとともに、社会総がかりで子どもを育む機運を醸成していくものです。

幼稚園就園奨励費格差是正総決起集会

平成21年11月24日（火）10：30～11：30
仙台市民会館小ホール

389名の保護者の皆さんが集まり、来賓として民主党宮城県総支部連合会代表の岡崎トミ子氏（代理）を始め、宮私幼PTA連合会顧問の元国会議員、県会議員の方々をお招きし、行なわれました。主催者である宮私幼連合会の村山十五理事長と宮私幼PTA連合会渥美巖会長の挨拶に続き、菊地文博県会議員（民主党）が来賓を代表して「地域主権、生活者第一主義を旨に格差社会の貧困化を抱える中で何を訴えていくのか。今、皆さんが最も望んでいること、そしてこの大会が実りあるものになるように、国に働きかけてまいります。」と力強く挨拶されました。その後、布田早苗宮私幼PTA副会長が幼稚園就園奨励費補助についての要望書を読み上げ、大きな拍手で採択され、同書を岡崎議員（代理）にお渡ししました。最後に、佐々木両道仙私幼PTA連合会会長が熱のこもった閉会の言葉を述べ、熱気に包まれた中で集会を終えました。

以下、要望書抜粋・・・今般、平成22年度の幼稚園就園奨励費補助の概要の中で、子ども手当の創設を踏まえて補助単価のあり方が見直さ



（民主党県連代表(代理)へ要望書を手渡す）

れており、幼稚園就園奨励費の総額は増加しているものの、年収が360万円を超えて680万円以下の世帯に対する第1子の補助金額が、平成21年度と比べると、62,200円から37,200円も減額され、25,000円になります。就園奨励費補助金は、保護者の経済的負担の軽減を図るために設けられた制度であり、教育基本法に幼児期の教育が新設されるなど、幼稚園における幼児教育の重要性が増してきている中で、前年度と比べて補助金額が半額以下になることは問題が大きく、理由としてあげられている子ども手当の創設とは意味合いが違い、今回の第IV区分の大幅な補助減額は到底納得のいくものではありません。よって、幼児教育の重要性と保護者の経済的負担軽減を十分ご考慮いただき、減額を考えておられる区分については、平成21年度と同様の補助単価としていただきますよう、強く要望いたします。



平成21年度宮私幼理事会の概要

日時 平成21年11月17日（火）午後3時30分～
場所 宮私幼会議室
議題

- (1) 幼稚園就園奨励費格差是正にかかる総決起集会について
- (2) こどもの豊かな環境キャンペーン「こどもまんなかPROJECT」について
- (3) その他

日時 平成21年12月11日（金）午後3時～
場所 宮私幼会議室
議事

- (1) 平成22年度私立幼稚園に対する補助金に関する宮城県知事及び亙山県議会議長への陳情書について
- (2) 就職内定学生の「研修期間における傷害保険」について
- (3) 平成22年度・第25回東北地区私立幼稚園教員

研修大会＜宮城大会＞の進捗状況について

(4) その他

報告事項

(1) 幼稚園就園奨励費格差是正総決起集会の結果報告

・平成21年11月24日（火）10:30～11:30

仙台市民会館小ホール

・参加人数389名

・11月24日（火）NHKニュース報道

・11月25日（水）河北新報記事掲載

(2) 第24回PTA全国大会（12月9日（水）アルカディア市ヶ谷）の報告

その他

(1) 平成21年度教育研究発表大会の運営について

(2) 各委員会の活動状況について

(3) 平成22年度予算編成について（事業計画及び予算要求）→提出期限1/20

(4) 平成21年度事業報告について（事業実績報告及び会議開催報告）→提出期限3/31

(5) 平成21年度第2回総会日程及び平成21年度第6回理事会について

(6) 平成21年度私立幼稚園に対する補助金等調査表

(7) 「こどもがまんなかPROJECT」について

第25回全日本私立幼稚園連合会 設置者・園長研修大会

テーマ：「明日にむけて私立幼稚園の振興を考える」

平成21年10月26日（月）・27日（火） 朱鷺メッセ：新潟コンベンションセンター

大河ドラマ“天地人”のふるさとで有名になった新潟市で表題の大会が開催されました。会場は、信濃川が日本海に注ぐウォーターフロントに位置する複合コンベンション施設「朱鷺メッセ」。船をイメージした建物だそうで、本格的な展示場、大小13の会議室、ホテルなどが完全に一体化した国内有数の複合一体型コンベンション施設で、その大きさ広さにとても驚かされました。

まず開会式の中で、前年度開催県であった宮城県
の村山理事長に感謝状が贈呈されたことをご報告いたします。



（村山理事長へ感謝状）

続いて行なわれた記念講演では、新潟大学名誉教授の間藤教授が「絵本を使った幼児教育戦略構想」という演題で、絵本は読み聞かせだけでなく、もっと知的資源として保育者がその可能性を引き出せるように学ぶ機会を増やしていくべきである、という内容のお話をされました。行政報告は、政権が変わった中でどのような説明があるのか、と参加者は固唾を呑むような思いで聴いているのがひしひしと伝わってきました。しかし、マスコミ報道の通り、政治家(政務三役)主導ということが示されましたので、文科省担当官は今までとは違い、確定的な自信ある説明とは程遠く、ありきたりの内容に終始し、政治力学を見せつけられたような思いでした。

第1日目の最後に、吉田敬岳会長から「こども



（新潟コンベンションセンター）

の豊かな環境キャンペーン」についての説明もありました。

2日目の第3研究講座の「経営」には、厚労省から児童家庭局保育課長が参加し、最初に保育行政の動向と課題の講話をしてくれました。「新政権は保育所の増設を図り、質の高い保育の確保、待機児童の解消につとめるという方向性で、施策を進めていくと思われる。」という内容でした。

その後パネルディスカッションに入り、三重県の山中理事の「3年前に園児減に悩んだとき、教職員の意識・人事改革を進め、行事をすべて見直し、幼保の違いをどのように出していくかを考え、親に幼稚園は教育機関であるという意識付けを心掛けた。そのような地道な努力が実を結び、とうとう行列ができる入園願書受付日を勝ち取ることができた。」という話が印象的でした。



（分科会）

宮私幼主催研修会の実績と 翌年度への対応

研究委員会 宮 城 卓 三

今年度の研修会は各幼稚園から多くの先生方の参加をいただき実施できました。

●新任教育研修会 7月23日/24日…100名

仙台幼児保育専門学校・猪岡久子先生の講話「子どもの気質と伸ばし方」、しげる幼稚園長小野寺靖子先生「幼児との関わりを考える」の講話を緊張の中で集中して聴く新任教員の姿が見られました。1日目午後からのグループ討議は活発に進められ、夕食後のグループごとの発表も内容の濃いものになりました。

2日目は赤十字社指導員による「幼児救急法」は実技を伴う充実した研修でした。

●未満児保育研修会 7月29日…40名

まつぼっくり保育園を会場に保育参観と情報交換の研修を行いました。

基本的な生活習慣の自立に向けた保育についての話し合いなど有意義な会となりました。

●中級者研修会 7月29日…137名

聖和学園短期大学小野真喜子先生から「子どもと向き合う保育者」と題して、実践に結びつく講話をいただきました。

午後からは、俯瞰図の中から「子どもの健康と安全」「特別支援教育」「子どもの発達の理解」を選び、グループに分かれて討議しました。

●10年経験者研修会 8月7日…80名

聖和学園短期大学片岡彰先生から「子どもをめぐる現状と教師の役割」と題して、貴重な資料を準備していただき内容の深い講話をいただきました。

午後からは、「教師の役割」「特別支援教育」等について活発なグループ討議がおこなわれました。

●免許状更新講習…7/26 8/8・9 8/22

4月から教員免許状更新制が実施されたのに伴い、該当する50名の先生方が必修12時間、選択12時間の講習でした。1日6時間の講義を真剣に受講し、筆記試験にも全員合格しました。お疲れさまでした。

地区別設置者園長会議の 報告

経営委員長 横 澤 行 夫

地区名	開催月日	開催会場	参加人員
仙 台	8月7日	旭ヶ丘市民センター	80
気仙沼・登米	17日	南三陸ホテル観洋	10
大崎・栗原	18日	レストランスギヤマ	17
名取・岩沼	20日	岩沼南こばと幼稚園	12
塩釜・多賀城	21日	グランドパレス塩釜	22
石 巻	25日	石巻グランドホテル	18
仙 南	27日	熊 野 幼 稚 園	13

8月に全7地区において、設置者園長会議が、上記の日程にて開催されました。各地区長並びにご出席の皆様、お世話様でした。21年度の実態調査の集計結果(園児納入金、初任給等)について、経営委員より報告があり、それにもとづき、22年度の園児募集の件、保育料等納付金の件、初

任給等教職員の待遇の件等申し合わせ事項を、協議していただきました。今年度の回収率は93%でした。

宮私幼からの提案の「今年は、園児募集開始を昨年同様10月1日よりとし、受付は11月1日より始める。」を全地区ご承認いただきました。他の申し合わせ事項につきましては、それぞれの地区の実態合わせて、共通理解をしていただきました。

また、宮私幼の各委員会よりの報告及び懸案事項の話もありました。今年度の会議は、総選挙の最中であり、政権交代が叫ばれていた(結局自民党は、惨敗で、民主党政権になりましたが)、国の施策が大幅に変わる可能性があり、補助金が今後どうなるのか?それによって納付金の値上げの可能性もあり、危惧する声が多くありました。

また、新型インフルエンザ対策で、会議を開催された時期は、手指消毒剤が品薄で、宮私幼でまとめて購入し、販売してほしいとの要望がありました。現在各園に、2,000円で希望園に頒布しています。

第24回東北地区私立幼稚園教員研修大会<福島>

大会テーマ：「今」幼児教育の問い直しを始めよう

＝あそび・生活を通して、後伸びする子どもに＝

平成21年10月23日(金)・24日(土) いわき



参加者約1,300名という盛況のもと第23回福島県私立幼稚園教員研修大会いわき大会と共催という形で行われました。

全10分科会の中で6園の公開保育(公開保育後の分科会は会場を移動)、4分科会は研究発表等の研修会でした。

過去に開催された東北大会では、今回のいわき大会のように主催県の私立幼稚園の地区研修会(公開保育・講演会)が同時に行われるという事がなかったように記憶しています。いわき大会に参加してみて、主催県として大会を開催するにあたり、研究や研修の面では担当に限らず地区全員で取り組むという点・運営面で県下の先生方が一丸となって協力されていたという点では、今までにない新鮮さを覚えると同時に、学ぶべきものが多くあったように思えました。

第2分科会 5歳児の育ち

(- 3・4・5歳の生活 -)

東北大会前には、ぜひ公開保育に参加し直接観て訊いて感じるなどの刺激を受け、それを今後の保育や環境構成に役立てるようにと先生方に話しています。

私の参加した公開園の学校法人志賀学園平第一幼稚園は(他に姉妹園3園有)、町からやや郊外にあり、自然に恵まれているだけではなく、隣接地に同経営者による保育園や老人ホームがあり、園児たちはそれぞれの施設と交流を持っているという園でした。

教頭先生の経験13年～新任まで14名という先生方が公開保育に向けて学び、環境を整え、子どもたちと共に取り組んできた事の全てが一目瞭然とわかるような工夫がなされ、園舎の至る所に掲示されていました。

公開時間は登園から11時まで。全クラスオープンに活動できるよう設定された園舎では、ハロウィン・お店屋さんごっこ・秋晴れの園庭では、設置されているステージでのカラオケをはじめ、

釣りコーナー固定遊具での遊び。道路渡った園の土地(田畑)では虫とりや自然物を使った遊びが展開されていました。

園児たちのにこやかで伸び伸びとした様子から、毎日の園生活が楽しく充実しているという事が感じられました。

5歳児の育ちをどのように捉えるかでは、「縦割りか否かではなく、各年齢でどのような育ちをしているかであって、3歳児の自己発揮できているか・4歳児の自己主張できたかが、5歳児につながっているかどうかです。」と助言の兵頭恵子先生。幼稚園にあって年中少時のロールモデルとなる5歳児の存在の大きさを再認識しました。



記念講演 「家庭の品格」

講師 昭和女子大学学長 坂東真理子先生

少子化・核家族化だけではなく、家庭の教育力低下により子育てに不安を持つ親が多い。その中で人を創る・人を育てる教師の仕事はとても大切である。今は、甘やかして子どもをだめにする親が多い。個性重視とはいえ、ありのままに育てると身につかないまま成長するので、子どものうちに習慣化するよう教えなければならない事。子どもの生活習慣を守る事。子どもはお客ではなく家族の一員なので手伝いをさせるべきである。アメリカでは「子どもは召使のように」日本では「親は子の召使いのよう」と、豊かな中でひ弱になっている日本の子どもの現状に触れ、豊かな中でも厳しくしつけるユダヤも例に出されました。

また、子どもたちの基礎作りの時には、「生き方のルール(健康に生きる習慣)。人の中で生きる人間(殺すな・傷つけるな・仲間と助け合う)。社会で自立する力・社会に貢献できる人を育てる」など、子どもの教育や養育にかかわる教師や保護者にとって貴重な講演でした。(記:斎藤潤子)

宮城県知事・県議会議長へ陳情

去る、12月15日に宮私幼PTA連合会役員、宮私幼常任理事、宮私幼対策協議会役員による「平成22年度私立幼稚園に対する補助金等についての陳情書」を携えて村井嘉浩知事に陳情に行ってきました。要旨は例年の通りですが、

1. 各私立幼稚園に対する運営費補助金は、今後共国が示す額まで増額していただきたい。
 2. 宮城県私立幼稚園連合会の退職手当金給付事業に係わる補助金を、設置者掛け金の2分の1相当額(1,000分の32)まで引き上げていただきたい。
 3. 私立幼稚園に対する子育て支援活動に係わる補助制度を充実していただきたい。
- の要望を行いました。

陳情には、宮私幼PTA会長・宮城県議会議員渥美巖氏、宮城県議会議員中島源陽氏、寺澤正志氏にも同行していただき、心強いご支援をいただきました。お母さん代表の布田早苗さんから知事に当選お祝いとして花束が贈られ、和やかな雰囲気の中で始



まりました。これに対して知事は、県議に初出馬する際、菊池政志先生の私幼への理解が応援条件であると言われたエピソードを話されながら、厳しい県の財政下で、1については、財源確保が難しい中努力したい。2については、ルール化しているので継続していく。3については、新政権で国の姿勢も分からないし、ここ2、3年財政が厳しいのでもう少し時間をいただきたい。

とご答弁いただきました。

その後、県議会議長畠山和純氏を訪ね同様の要望を行いました。議長は議会として厳しい財政の中で善処したいとお返事をいただきました。

宮城県知事表彰・宮城県教育長表彰 祝賀会



宮城県知事表彰の九条幼稚園 畑中てる子先生と宮城県教育長表彰の聖ドミニコ学院北仙台幼稚園 齋藤潤子先生の有志による受賞祝賀会が平成21年12月11日

ホテル仙台プラザに於いて行われました。

畑中てる子先生の代わりに畠山ひで子園長先生が出席し、花束の贈呈、そして受賞者のお二方からは受賞の喜びとご挨拶をいただきました。

また、ご出席いただいた宮私幼PTA連合会の会長、副会長、各園の先生からご祝辞を賜りました。

最後には参加者全員が手を繋ぎ輪になり、お人形幼稚園の横澤先生の歌に合わせてながら会場を回るなど和やかな雰囲気ですべてを終えました。

訃報

- 11月1日 菊田貫雅氏(立華幼稚園理事長)ご逝去
- 12月24日 梶 ちよ氏(まとは幼稚園設置者)ご逝去
- 1月15日 遠藤眞彌氏(みやの森幼稚園前理事長)ご逝去

【表紙によせて】

幼稚園就園奨励費格差是正決起集会から

編集後記

宮私幼だより第130号をお届けします。今年度は各号の頁数を減らして3回の発行を予定しております。

さて、昨年政界では政権交代が行われましたが、PC業界でもWindowsがVistaから7へと変わりました。今度のWindows 7は消費メモリーが少なく、更にUIが飛躍的に改善されて、新しいカメラや携帯電話でお馴染みの、画面を直接指でタッチ

し操作できる機能(新型の対応機器が必要)が加わりました。iPodのように親指と人差し指で画像を拡大したり縮小したりでき、今後のアプリケーション開発に大きな期待が持てます。

ただ、かなり悪質な新型ウイルスも数多く報告されていますので、これから年度末へ向け忙しくなる時期です、PCへのウイルス感染も人間へのインフルエンザ感染も防ぐ方法は予防策を徹底することです。(H)